

# アクリル画におけるハッチングに関する一考察

桶田 洋明

(2007年10月23日 受理)

A Study of Hatching in Acrylic Painting

OKEDA Hiroaki

## 要 約

アクリル絵の具を用いた写実的絵画に見られるハッチングの役割を、ハッチングの種類や歴史、他の描画材による描画法、アクリル絵の具の性質等を研究した上で導き出していく。ハッチングの種類と階調表現との関わりを踏まえて、アクリル画による効果的なハッチングについて試作を基に表現していく。また、ハッチング以外の描画法も参考作品として試作することで、ハッチング技法の特性を導き出し、さらに他の色材では得られないアクリル画ならではのハッチング技法を考察していく。本研究により、独自のマチエールと色調を表現することが可能となり、新しいアクリル絵の具による作品を生み出すことを助長する。

キーワード ハッチング、マチエール、絵画、アクリル絵の具、メディウム、油絵の具、描画法

## 1 はじめに

本稿は、平成19年3月発行の鹿児島大学教育学部研究紀要第58巻<sup>①</sup>の拙稿に並行して研究したものであり、アクリル絵の具を用いた写実的絵画表現のハッチング技法について分析していくものである。

前研究では、アクリル画に見られる特徴を詳細に考察した後、アクリル絵の具における諧調表現について具体的に考察した。その結果、アクリル絵の具を用いた際の絵肌の作り方は、詳細に分析ができたと思われる。アクリル絵の具独自の描画法は数多く見られたが、同時に他の絵の具、特に水性絵の具の描画法との共通点は少なくないということも理解できた。乾燥の速さを補う描画法は、同様の水性絵の具に共通するものなのであろう。油彩画誕生以前、フレスコ画やテンペラ画に共通する主要な描画法のひとつにハッチングが挙げられる。ハッチングは西洋絵画の古典的描画法であるが、主に水性絵の具の技法として使われてきた。よって同じ水性絵の具であるアクリル絵の具に

においてもハッチングは有効な描画法のひとつに成り得ると思われる。しかし、展色剤の特性から他の水性絵の具とは異なるハッチング技法が必要になる可能性もある。

そこで本研究では、絵画におけるハッチングの役割や概念を考察してから、ハッチングが多く使われた描画材について考察し、各々の具体的なハッチング技法の特徴を挙げる。その上でアクリル画に適したハッチングを、試作を基に追求していくこととする。本研究により、水性色材であるアクリル絵の具を用いた表現の多様性を理解するとともに、アクリル絵の具ならではのハッチング技法の特徴を導き出すことで、独創性の高い新たな表現を生み出すきっかけとなると思われる。

## II ハッチングの歴史と役割

### 1. 概念と歴史

ハッチング (Hatching) とは、線を多く引きまたクロスさせることによって濃淡を表す描画法であり、「雨降り描き」、「線影」、「陰影」、「ケバ付け」などと訳されている。日本の美術用語を数多く作り出した森鷗外は、筋隈 (すじぐま) と訳し、『或は並行し、或は縦横交叉したる線にして陰を描くをいふ』という訳語を残している<sup>(2)</sup>。ハッチングは、後述するフレスコ画やテンペラ画に多く用いられる描画法であるが、そのほかにはペン画や銅版画においても用いられる。ペン画や銅版画では主に暗部を表現するために用いられるが、テンペラ画を筆頭とした色材を用いてハッチングを施す場合は、明部に用いることもある。ハッチングの線の量によって明暗の濃淡は表現される訳であるが、その原理は、下層の色彩が上層のハッチングされた色彩の間から見える量によって変化し、その両者を視覚で混合することで濃淡を認識している事になる。また、線の量だけではなく、線そのものの濃淡や太さによっても陰影の変化はつけることができる。

西洋絵画において、ハッチングはまずフレスコ画に数多く見ることができる。フレスコ画は、消石灰と砂の堅牢な支持体に顔料を水で溶いて描画されている。絵の具それ自体には接着性がなく、描画中は下層の絵の具および下地が常に濡れている状態のため、上層の絵の具と混ざりやすく、また強い筆致を用いることができないため、絵の具の塗り重ねはハッチングを多用する。ハッチングは線描のため下色を溶かす危険性は少なく、また色のグラデーション(諧調)表現が難しい乾燥の速い水性絵の具の場合、色彩を線描で並べることができる。白色の描写の際に消石灰を使う場合もあり全体的に艶の無い明るい画面と相まって柔らかな雰囲気が出る。

古典絵画において移動可能なもののひとつに、板に描かれた「聖像画」(イコン)があるが、厚い板に石膏下地、背景には金箔が施され、絵の具にはテンペラ絵の具が使われている。テンペラ絵の具の初期耐水性の弱さからくる色重ねの困難さ、また速乾タイプによる色彩のグラデーションの難しさを克服するためのハッチングは画面の細密感を支え、清潔な硬質感を見事に表現している。これらの基になるものは、展色剤である卵黄メディウムの性質である。卵黄の接着成分の少なきゆえ、顔料の露出度が高まり、不透明でつや消しの画面を構築している。また、テンペラ画の場合、特に

暗部に明度の高い線でハッチングをすることにより、テンペラ絵の具本来の発色の良さが活かされて、彩度の高い画面を生むことができる。

テンペラから油絵の具への移行期では、卵黄と乾性油を混合したものを展色剤としたテンペラグラッサが登場する。卵に油成分を添加しているため、卵黄テンペラ画よりも滑らかで光沢な画面が容易に表現できるようになり、油彩画のようなぼかしもある程度できるようになった。ポッティチェリはこの技法を用いて表現している。下層は比較的油彩画のようなぼかしやタッチで表現し、上層を明度の高い色でハッチングをしているのが見受けられる。その結果、油彩画のような滑らかな諧調とハッチングによる織物的諧調が複合されて、硬質でありながら深みのある明暗表現が表出されている。

油彩画が本格的に西洋絵画の本流になってからはハッチングによる表現は影を潜めたが、19世紀後半の印象主義の作品から、再びハッチング的描画法が見られるようになる。従来の古典的表現である透層技法は、半透明な上層絵の具を透過して不透明な下層絵の具を見ることで色彩の混合を作っていたが、印象主義の時代では、異なる色彩を並置することで視覚混合を施すことを目指した。そのため、点描法が主な描画法として多くを見ることができ、ハッチング的線描による色彩の並置も作品によっては読み取ることができる。

### 2. 種類と役割

ハッチングの種類に関しては、平成18年3月発行の鹿児島大学教育学部研究紀要第57巻<sup>(3)</sup>の拙稿でも考察したとおり、図1のように分類される。一本の平行な直線のみものをパラレル・ハッチング (parallel hatching)、それを網目にクロスさせたものはクロス・ハッチング (cross hatching)、2回交叉させたものがダブル・クロス・ハッチング (double cross hatching) となる。これらは表現する形態の影響を受けずに、直線のみで表現したものである。一方、表現する形態に沿って丸みを帯びて表現されたものが、コントゥール・ハッチング (contour hatching) で、それをクロスさせたものが (contour cross hatching) である。こちらは表現する形態によって長さや曲線の曲がり具合、方向等が変化する。

ハッチングはデッサンを支える造形要素の一つでもあるため、有彩色を除いた明暗だけの表現においても有効な描画法である。よってデッサンにおいて線を同じ方向に引いて影を表現したり、質感を出したり、空間や感情を表現するためにも用いられる。形をとっただけのデッサンにハッチングを加えることで、絵に空間や質感、存在感が生まれてくるのである。デッサンにおいて、一般的にはパラレル・ハッチングやクロス・ハッチングを中心に用いられることが多い。その第一の理由は、コントゥール・ハッチングよりもすばやい描写が可能ということであると思われる。また、直線的ハッチングのほうが、ハッチングの線そのものの主張が少ないため、色面や陰影として認識しやすいということも挙げられる。その上、コントゥール・ハッチングは形態に沿った線とするため、形態そのものの把握が必要であり、ある程度の立体把握能力を持ち合わせていなければ使えないと

ということになる。なお、これらの理由はデッサンに限らず、絵の具を用いた場合においても同様であろう。

一方向のみの平行・ハッチングでも線の方向によって印象が変化する。図2のように、立方体を例に縦、横、斜めの平行・ハッチングにおける表現の違いを考察してみる。

縦のハッチングは、立方体という平面を90度で組み合せて構築された立体では、あまり違和感はないが、他の2つと比較するとやや硬さや重さを感じ取れる。これは縦方向の直線の影響であり、上下に引っ張る力が働き、見る側が重力を感じとるからであろう。背の高い、上下に長い物体の存在感を表現する際にはこの縦のハッチングは有効であるが、反面、背の低いものに用いると必要以上に重く見えてしまうことがある。

横のハッチングも縦同様、やや硬さを感じるが、縦よりも重圧感はない。これは垂直方法ではなく横方向の横の広がりを感じるからである。つまり横に広い物質などの大きさを暗示させる効果がある。縦と横の使い分けは表現する物質の形態や構図、画面の縦横比等によって使い分けることで、効果的な明暗表現が可能となる。

斜めに引いたハッチングの場合、縦、横のどちらにも影響を受けていないため、比較的自由な動きが感じられる。この斜めのハッチングは、風景を例にすると、重力や広がりを受けないために硬さがなく、画面の奥に広がっていくような印象を受ける。つまり物質の形態に影響を与えない

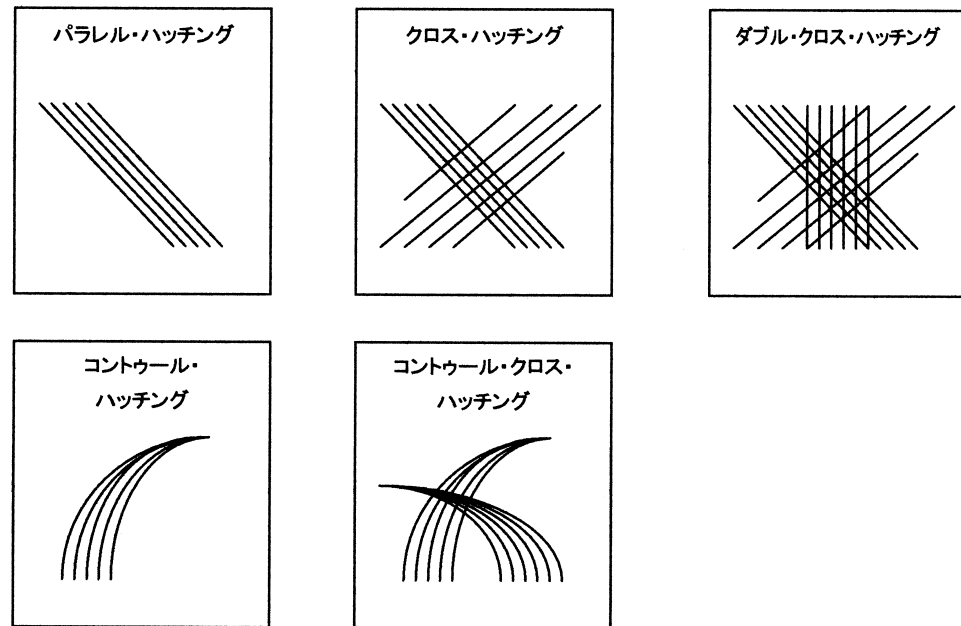


図1. 主なハッチングの種類

ために、自然な陰影の認識ができるのである。また、制作者の感情や主観が反映されやすいため、作品の主題そのものの表現を助長することにもなると思われる。また一般的に最も速く描くことができるハッチングである。人間の腕や手の構造上、垂直、水平線よりも斜線の方が引きやすい。なお、右利きは右上から左下にかけての線、左利きは左上から右下にかけての線になる。すばやく簡単に引ける線ゆえに、機械的にならず感情表現まで盛り込む余裕ができるため、それらが作品に反映するのである。

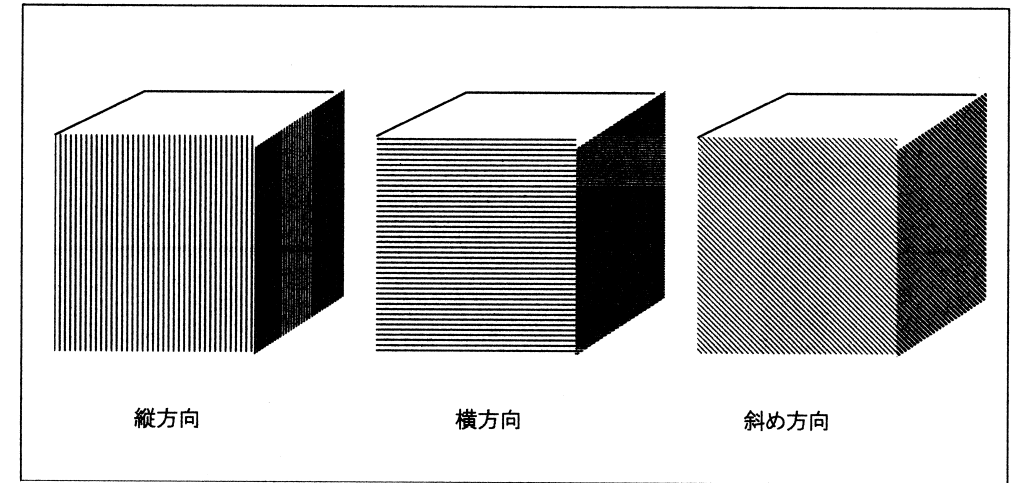


図1. 主なハッチングの種類

### III 色材とハッチングとの関係

本章では、前章のハッチングの歴史をふまえて、さらにアクリル絵の具以前の色材別の効果的なハッチング技法を考察し、次章のアクリル絵の具のハッチングについての考察における参考とした。

#### 1. 油性絵の具のハッチング

本来であれば、歴史の流れからは水性絵の具の方が先に使用されているため、油性絵の具の方を後で論述した方が好ましいのであるが、水性、油性混合技法を次節にて論述することにしたため、油性絵の具の特質を確認する上でも最初に述べることにした。

油性絵の具の代表は油絵の具であるため、本節では油絵の具におけるハッチング技法について考察していく。

油絵の具は顔料を植物の乾性油で練り上げた絵の具であり、その乾性油が持つ透明感のあるマチ

エールが特徴的である。油彩画に使われる主な描画法を挙げると下記のようなになる。

平塗り…塗り斑無く、平たい状態に塗り上げる。

グレース、グラッシ…透層。半透明な絵の具をかける。

モデリング…媒質塑形。状態は様々で、色々な状態が望める技術。

ドリッピング…絵の具の玉を振り落とす技術。

フロッタージュ…物の型を起こす技術。

コラージュ…紙を張り合わせ、絵画にする、また絵画と一体化させる。

アッサンプラージュ…立体物を張り合わせ、絵画にする、また絵画と一体化させる。

インタリオ…陰刻法。凹を刻む方法。削るハッチング。

マスキング…テープで支持面を保護し、保護されていない所だけに塗布する。

ステンシル…その保護の計算織面仕様によって、模様を創る。

デカルコマニー…張り合わせた絵の具の引きや型を使う、型押しモデリング。

ヒディング…下地の跡を少し隠し、その痕跡を魅力に変える技術。

ボワリング…絵の具を垂らす技術。

アクションペインティング…絵の具を叩きつけたり、振り回したりする技術。

以上は油絵の具の描画法に限らず、他の色材を用いた際でも使うものが数多く含まれている。しかしそれは別の観点で述べると多くの技法を用いることが出来る応用力のある色材であるとも言える。長期にわたり絵画における色材の代表格の地位を歩んできているという現実もある。

また、油彩画の特徴をここで下記にまとめてみる。

- ・ 展色剤が乾性油なので光沢感がある。
- ・ 美しく深い色材の透明色の表現が可能。
- ・ 深みのある色彩表現が可能。
- ・ 堅牢な絵肌になる。
- ・ 乾燥後の絵の具の体積減少がない。
- ・ 厚塗り、モデリングがしやすい。
- ・ 乾燥速度が遅い。
- ・ ぼかし、諧調表現がしやすい。
- ・ 耐久性が高い。

油絵の具は乾性油の粘り気や透明感から醸しだす発色や絵肌が特徴的であり、また、乾燥速度の遅さから来るぼかしのし易さも、水性絵の具にはない長所と言える。したがって、描画法も平塗り

やモデリングでたつぷりと不透明な絵の具で描写することができ、しかもぼかしやグレース等を用いることで諧調表現も容易である。つまり、ハッチング的描画法は油彩画においてはあまり必要としないということも言える。

ハッチングを実施する場合、細くて長い線を用いるわけであるが、油彩画においてそのような表現はあまり得意としない。その理由は、乾性油が粘り気やこくがあるという特徴を持っているため、細い線は困難であり、かといって揮発性油等を添加して濃度を低くし、粘り気を無くしても今度は色彩の不透明度が低くなるため、強くてシャープな線の表現が望めなくなる。

展色剤である乾性油と顔料との比率を変えて、顔料比率を大きくすることで、乾性油の粘り気や透明感といった特性を弱めた絵の具でハッチングを施せば、上記の問題点は解消できる。しかしながらその場合は、油彩画のオーソドックスな特徴である色彩の光沢やこく、深み等は弱められてしまう。

## 2. 水性絵の具のハッチング

アクリル絵の具登場以前の水性絵の具は数多く存在するが、前章で述べたフレスコ画、卵黄テンペラ画、テンペラ・油彩混合画に絞って考察してみる。なお、透明水彩画は不透明な隠ぺい力を持ち合わせていないため本稿では除外する。

フレスコ画は展色剤を用いないで描写していくため、希釈剤である水の加減によって絵の具の濃度が決定する。したがってハッチングに適した濃度にした場合、不透明度は低くなるため、ハッチングの線は淡い色彩となり画面になじむ。しかし、支持体である漆喰地は濡れており、また平滑性も低いため、あまり細密なハッチング描写はできない。つまり、淡く半透明でやや太めの線を用いたハッチングとなる。また、支持体の状態や限定された制作時間のために数多くのハッチングの重層は不可能なため、直線的なパラレル・クロス・ハッチングよりもコントロール・クロス・ハッチングを用いることが多い。

卵黄テンペラ画は展色剤である卵黄が適度な粘りと厚みを持っているため、ハッチングの線に関してもフレスコ画のそれよりも厚みのある、不透明なものになっている。また、絵肌は容易に平滑となるため、ハッチングの線の伸びも良好である。その分、ハッチングに頼る割合も高くなるため、卵黄テンペラ画には欠かせない代表的な描画法であるとも言える。パラレル、コントロール・ハッチングのどちらも可能であるが、いずれにしても線の長さどちらかといえば短めであることが多い。これは長い線を不透明でシャープな線を引くことが難しいからであると思われる。

最後にテンペラ・油彩の混合技法を用いた場合を考察する。この技法の最大の特徴は、油性絵の具の長所と水性絵の具の長所を融合させて表現することである。透明感や光沢、色彩の深みやこくは油絵の具で表現し、色彩の彩度や発色の高さ、細密性はテンペラ絵の具で表現することができる。また、ハッチングはテンペラ絵の具の役割であるが、一般的に、下層の油絵の具が半乾きのときにテンペラ絵の具で加筆するため、ハッチングの線が適度に弾かれて、極めて細くてシャープな線描

が表現できるのである。これは混合テンペラメディウムが持つ、半水性の性質が作用することで見られる現象である。また、ハッチングの線は細さだけでなく、長く引くことも容易である。なお、ハッチングのタイプはやはり平行、コントロール・ハッチングのどちらも可能であるが、直線を用いた作品のほうが多いと思われる。

以上、3つの水性絵の具におけるハッチングについて分析したが、やはりテンペラ画において有効な描画法であることが理解できる。特にテンペラ・油彩混合技法においては細くて不透明な線の表出が可能であるといえよう。それぞれの特徴を踏まえて、次章にてアクリル画における効果的なハッチングを検証していく。

## IV アクリル画のハッチング

本章では、前章までの考察をふまえて、アクリル絵の具の効果的なハッチング技法を考察する。最初にアクリル絵の具の特徴を簡単に確認した後、試作を基にアクリル絵の具のハッチングについて検証していく。

### 1. アクリル絵の具の特性

拙稿<sup>(4)</sup>でも考察したように、アクリル絵の具は他の水性絵の具にはない特徴も数多く見られる。ここでアクリル絵の具の特徴を簡単に下記にまとめておく。

#### 長所

- ・樹脂が無色透明。鮮やかな色や蛍光色をも絵の具にすることが可能。
- ・高い速乾性。
- ・乾燥後の塗膜は再溶解しない。
- ・接着力が強いため、多くの素材に利用可能。
- ・コラージュや、砂等を混ぜて独自のマチエールを作ることが可能。
- ・高い柔軟性。
- ・水性のため安全で、扱いも平易。
- ・変色、変質が起りにくく、カビが生じない。

#### 短所

- ・油彩画と違って色にコク、深みがない。
- ・乾燥が速い故にぼかしがしにくい。
- ・再溶解しないので一度つけた色を取り除くことが難しい。
- ・乾燥後体積が減るため、色が痩せて見える。

- ・乳白色をしたアクリル樹脂が乾燥後透明になるため、絵の具の明度が乾燥後下がる。

これらの特徴となる上で最も大きな要因は、言うまでもなく展色剤であるアクリル合成樹脂の特性である。特にアクリル合成樹脂の強い被膜と高い速乾性は、他の水性絵の具にはない特徴であり、それらに伴って描画法も独自のものが数多く見受けられる。

### 2. アクリル絵の具を用いたハッチング

本節では、アクリル画における効果的なハッチング技法を、学生の試作を基に導き出していく。拙稿<sup>(5)</sup>において、アクリル画に適したハッチングの概略を検証しているため、その際の技法を中心にしながら他の技法も試みていく。具体的には以下のように設定した。

- ① 平行・クロス・ハッチングで灰色地に白色線で描写
- ② 平行・クロス・ハッチングで白色地に灰色線で描写
- ③ コントロール・クロス・ハッチングで灰色地に白色線で描写
- ④ コントロール・クロス・ハッチングで白色地に灰色線で描写

さらに、ハッチング技法ではないが、アクリル画において効果的な諧調表現技法のひとつである「洗い出し」についても試作を実施した。

- ⑤ 洗い出しで灰色地に白色で描写
- ⑥ 洗い出しで白色地に灰色で描写

以上、6つの試作品の支持体、絵の具は下記の通りである。

モチーフ：球、画面向かって左上からの光源を想定

支持体：水彩紙

下地：無し

サイズ：10×10cm

絵の具：マースブラック、チタニウムホワイト

白色、灰色の明度は上層時、下層時を問わず同一

ハッチングに使用した筆：蔦絵筆



## ① パラレル・クロス・ハッチングで灰色地に白色線で描写

不透明な灰色の円を平滑にムラなく塗布した後、チタニウムホワイトに大量の水を混ぜて希釈したものでパラレル・ハッチングを実施する。線の方向は制作者の奥から手前として、常に身体に向かって垂直になるようにする。ほぼ45度ずつ線を入れるが、その都度画面の位置を動かして、垂直線が引けるように心がけている。当然ながら、明るい部分はハッチングの線が密集するため、白い線の物質感が消滅し、なだらかで美しい階調表現になる。ハッチングに用いる白色は水で大量に希釈しているため、半透明な色調になっている。そのため、ハッチングの線が少ない描き始めの頃は、下地の灰色が白色の下から透けて見えており、強い白色線は表現されていない。しかしながら結果的にそれは画面の透明感を助長し、柔らかな階調を生み出す基になっている。ハッチングの線が密集している箇所は白色よりも下層の灰色地の方がほとんど見えなくなっている。白色の線の隙間から表出している灰色はドット状になっており、点描で表現したような配列をなしている。

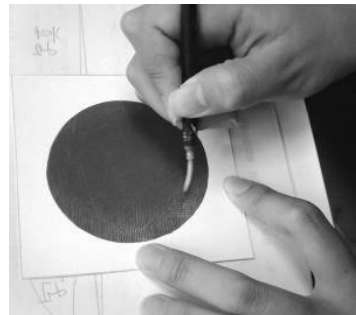


図3. パラレル・クロス・ハッチングの制作風景

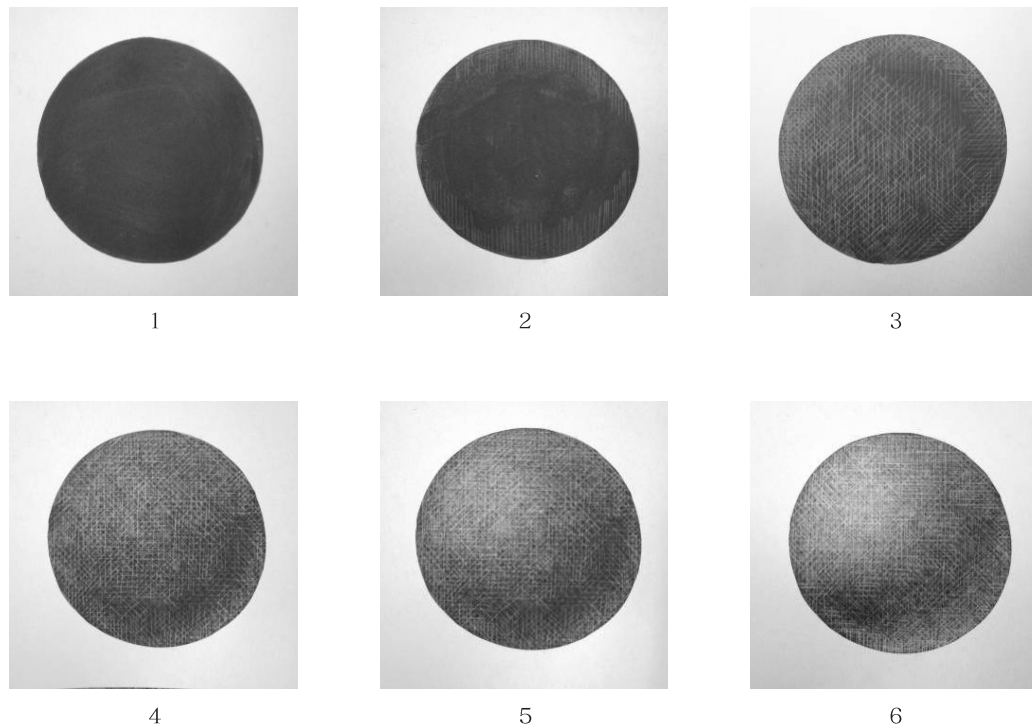


図4. 学生試作 ① パラレル・クロス・ハッチング 灰色から白色

## ② パラレル・クロス・ハッチングで白色地に灰色線で描写

①と技法上は同様であるが、不透明な白色を円形に塗布した後、大量の水を含んだ灰色でハッチングを行っていく。白い紙に鉛筆や黒のペンなどで描写することと似たような状況になる。線が灰色とはいえ、かなり最後まで目立っており、絵の具の物質感がなかなか失われない。①の灰色地に白色でハッチングをする際は、下層の灰色がかなり透過しており、白色線の強さが弱められていたが、今回の場合は上層の灰色の強さが勝っているため、灰色のハッチングがはっきり出すぎている。これらを解消するためには、ハッチングに用いる灰色の明度を上げる必要があると思われる。

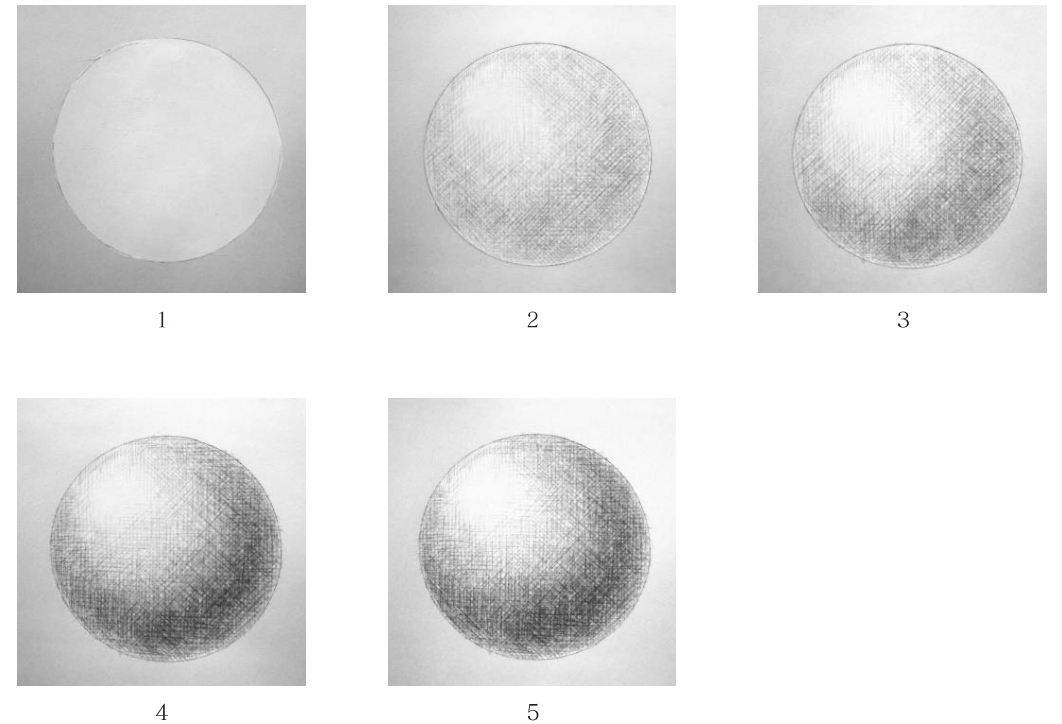


図5. 学生試作 ② パラレル・クロス・ハッチング 白色から灰色

## ③ コントゥール・クロス・ハッチングで灰色地に白色線で描写

色彩の使い方は①と同様である。コントゥール・クロス・ハッチングのため、球の形状を意識して曲線でハッチングを施していく。パラレル・ハッチングと違い、曲線のため等間隔に線を描きこむことが難しく、おのずと完成時間は①よりもかかってしまうようである。しかしながら、曲線の集積により、直線よりも有機的表現が可能であり感覚的な階調表現が可能であるとも言える。モチーフのタイプによっては効果的な方法であると思われる。人体の皮膚の表現にもよく使用されており、より自然な肌の階調の仕上がりが期待できる。

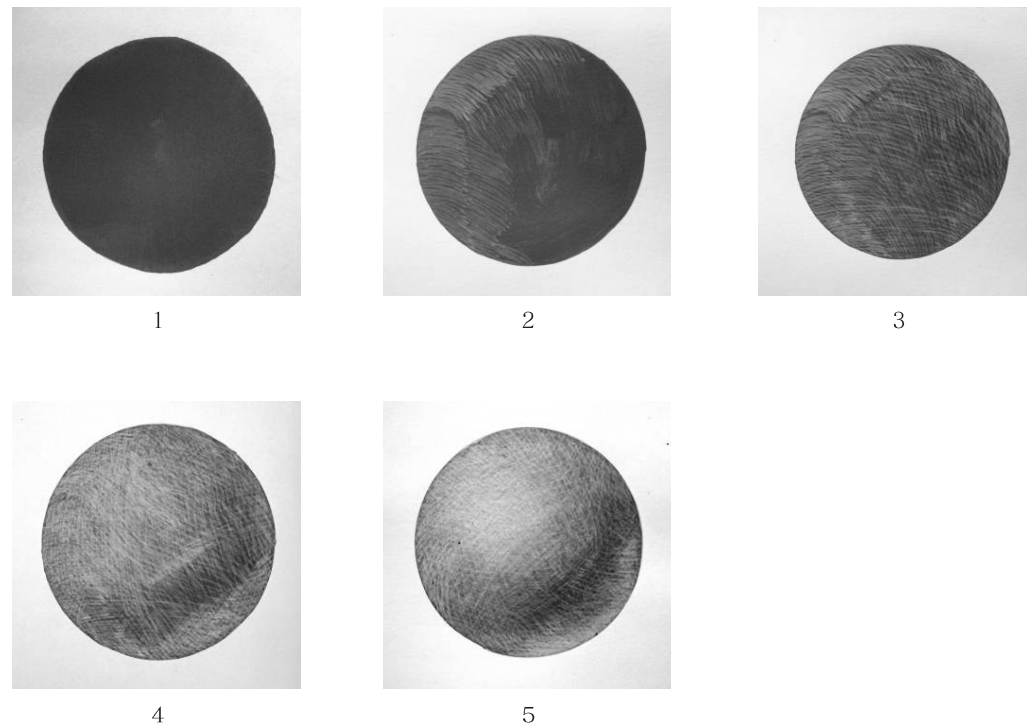


図6. 学生試作 ③ コントウール・クロス・ハッチング 灰色から白色

④ コントウール・クロス・ハッチングで白色地に灰色線で描写

③の色彩を入れ替えて表現したものであるが、②同様に灰色のハッチングの線による絵の具の物質感が最後まで残ってしまっている。曲線ゆえに細い線の表現が難しいので②以上に線が主張しており、異質の物質感がにじみ出ている。これらを解消するためには②同様、灰色の明度を上げて、下層の白色との明度差を下げることであろう。

⑤ 洗い出しで灰色地に白色で描写

洗い出しは拙稿<sup>\*)</sup>において、アクリル画での効果的な描画法のひとつであることを論じたため、ここでは参考試作品として実施した。不透明な灰色の円形を塗布後、しっかり乾燥させた後、不透明な白色で灰色地の上に平塗りする。この際、白色絵の具の濃度は下層の灰色地よりも若干多めにするが、絵の具が透明にならない程度とする。なお、絵の具の厚みも最小限にとどめる。白色絵の具が指触乾燥した後、湿らせた布を用いて白色絵の具を剥ぎ取っていく。当然ながら暗部を中心に剥ぎ取ることになる。この描画方法は、ハッチングとはまったく違った表現になるが、細部の表現には向かないため、広い範囲における階調表現に適していると思われる。

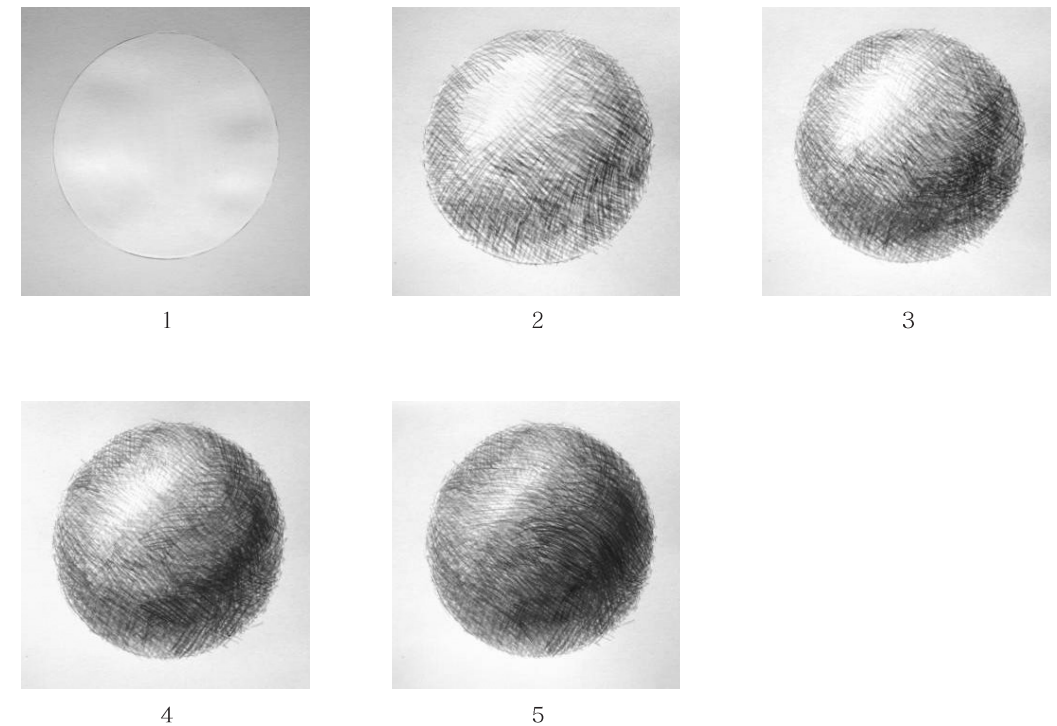


図7. 学生試作 ④ コントウール・クロス・ハッチング 白色から灰色

⑥ 洗い出しで白色地に灰色で描写

⑤の色彩の順序を逆にした表現である。基本的には⑤と大きな差はないが、白色をコントロールしていくほうが階調表現において滑らかになるため、この⑥の試作はやや時間がかかるようである。また、黒色が背景にもにじみ出してしまうため、球体の表現が完成後に背景を塗布して仕上げる必要がある。⑤同様、今回の試作のサイズとモチーフから、細密な表現が可能な描画法が適しているため、この洗い出し技法は細部の表現において手間取る点が見られた。

以上、6つの試作を基に検証したが、もっとも有効的な描画方法は①の平行・クロス・ハッチングで灰色地に白色線で描写であると思われる。当然ながら作品のサイズや描かれるモチーフによっては他の描画法が優れていることがあるであろう。特に広い面積には①の描画法では完成までに長時間を要するため、不向きであるとも言えよう。しかしながらある程度の面積であれば①の描画方法はもっとも美しい階調表現が得られ、また微妙な階調の変化も容易に表現できると思われる。また、他の描画材、特にテンペラ・油彩混合技法と比較をしてみると、テンペラ・油彩でのハッチングのほうがシャープで力強いものに仕上がる傾向があり、アクリル画のそれは滑らかで淡い階調が表現できる。

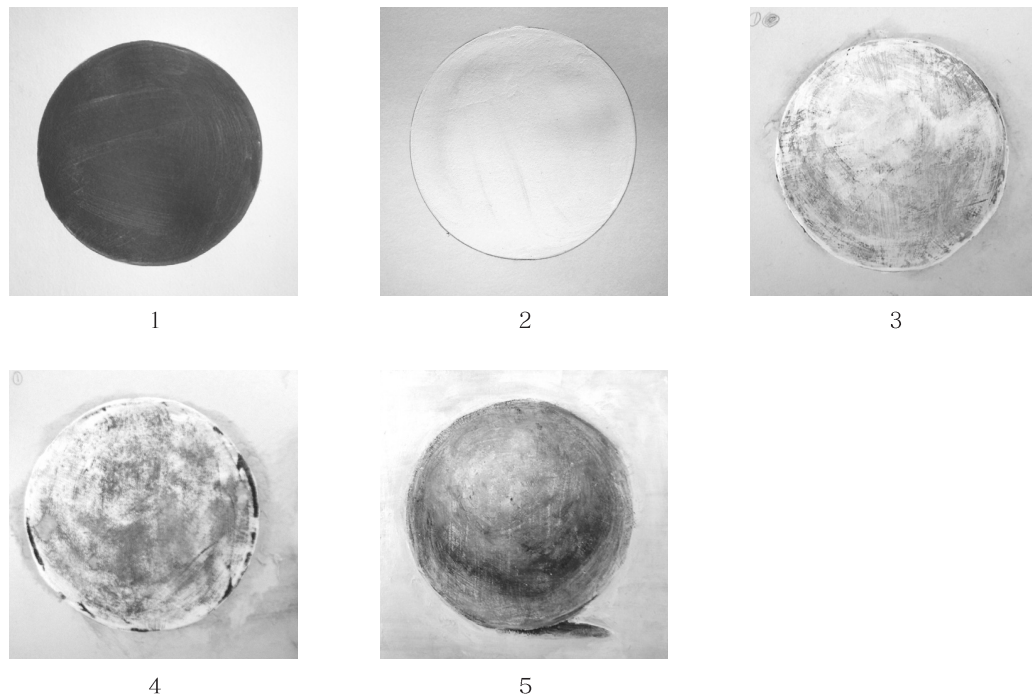


図8. 学生試作 ⑤ 洗い出し 灰色から白色

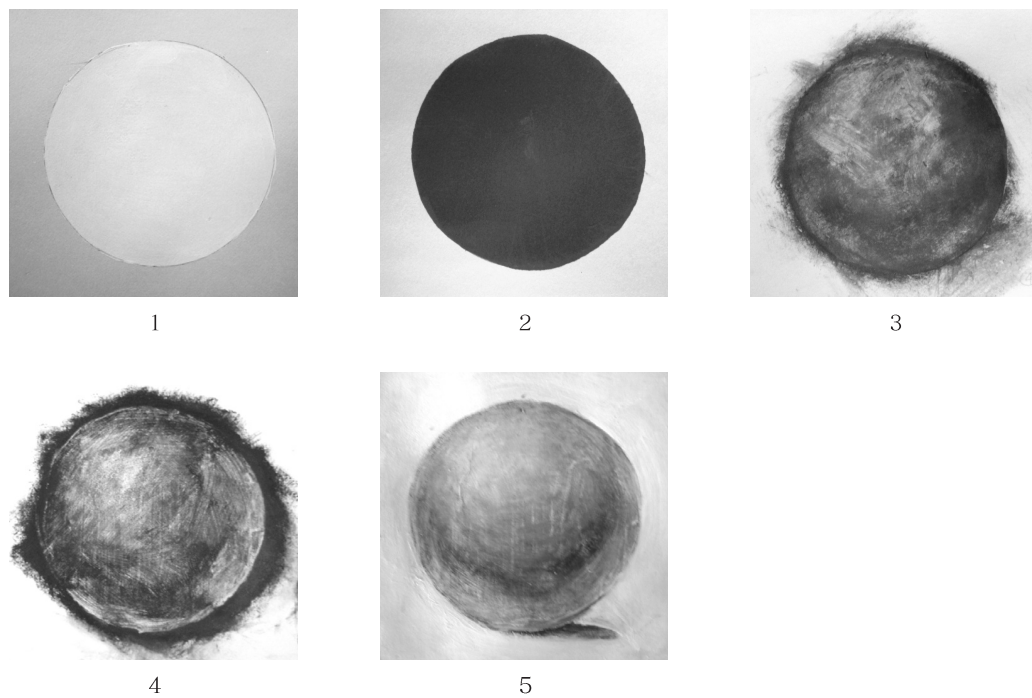


図9. 学生試作 ⑥ 洗い出し 白色から灰色

## V おわりに

ハッチングは西洋絵画において古典的な描画法の一つである。しかしながら油彩画全盛の時代を迎えて、それを目にするのは少なくなった。すべての描画法は色材との関わりが不可欠であるため、油彩画に不向きなハッチングが影を潜めていったことはやむを得ないことであろう。しかし20世紀中頃以降のアクリル絵の具使用の増加やテンペラ絵の具の復活により、再びハッチング技法は目にするようになってきた。アクリルという新しい色材を扱う上で、ハッチング技法がどの程度有効で今後の発展性を秘めているのかは未知数であったが、本研究によって、テンペラ画とは違うアクリル画ならではのハッチング技法を導くことができたと思われる。今後はアクリル絵の具以外の色材も研究対象にして、より新しい独創性の高い描画法の研究を継続して進めていくこととする。

### 註、および引用文献

- (1) 拙稿、『アクリル画における絵肌に関する一考察』、鹿児島大学教育学部研究紀要、人文・社会科学編、第58巻、2007、pp.49-63、参照
- (2) 田口安男、『黄金背景テンペラ画の技法』、美術出版社、P.31参照
- (3) 拙稿、『アクリル絵の具による描画法に関する一考察』、鹿児島大学教育学部研究紀要、人文・社会科学編、第57巻、2006、pp.80-81、参照
- (4) 拙稿、『アクリル絵の具による描画法に関する一考察』、鹿児島大学教育学部研究紀要、人文・社会科学編、第56巻、2005、pp.91-93、参照
- (5) 拙稿、『アクリル画における絵肌に関する一考察』、鹿児島大学教育学部研究紀要、人文・社会科学編、第58巻、2007、pp.49-63、参照
- (6) 拙稿、同上、参照